



A web guide to
MOOD MKII

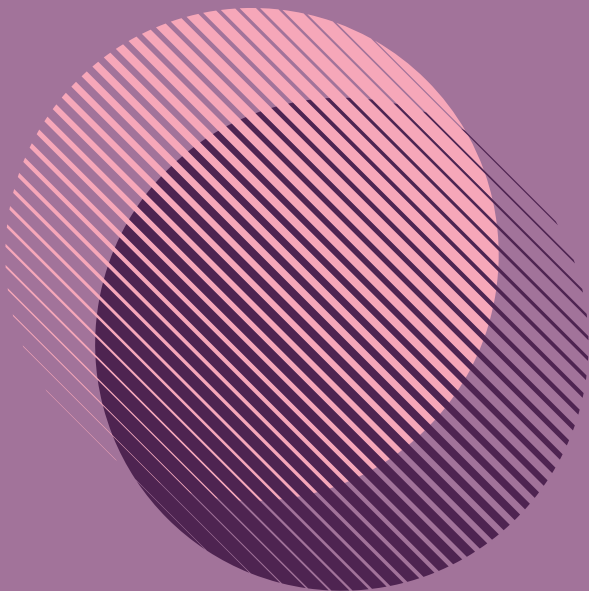


Table of Contents

2	Overview
4	Setup
6	Getting Started
8	Controls
14	Hidden Controls
18	Clock
22	Wet Channel
28	Micro-Looper Channel
36	Spread
40	Routing
42	Classic Mode
44	Customize
46	Ramping
48	External Control
50	Bye



9V DC Power req: 9V DC Center Negative ~270 mA

Overview


やあ！そしておかえりなさい。

既にあなたがMOODの世界をご存知ならよし。MOOD MKIIはオリジナルのMOODであなたがたどり着いたところ、そのすぐから始まります。同じコントロールに同じ精神性、そして更にもっと遠くへ、あなたの音楽体験をチューンするたくさんの方法を提供します。

もしまだ知らないなら、もっと最高。

MOODは音をぐちゃぐちゃにするために生まれました。あなたは理解しなくていいし、多分理解しないほうがいいかも。オンにして、驚いて、新しいサウンドを探しましょう。

でもこのマニュアルでは、MOODが何なのかを説明します。それが僕たちの仕事だからね。



このマニュアルではMOOD MKIIをシンプルにMOODと呼びます。簡単だからね。

MOODは2チャンネルのマルチエフェクトです。片方は音を採集して短い瞬間をループさせ、もう片方はリアルタイムの空間系エフェクトたちが揃っています。

MOODを特別にしているのは、この2つのチャンネルは相互関係にあり、互いに影響するということです。マイクロループを空間系エフェクトで処理したり、そのエフェクトをまたループへ録音もできます。チャンネル間をオーディオが自在に行き交うことで、終わりのない無限のトランスフォームへ誘います。

音楽的な化学実験ツール。コンパクトでシュールな水彩カラーパレット。

詳しく見てみよう。



Setup

MOODをあなたの環境にセットアップしよう。あなたがペダルについて経験豊富なら、いくつかの項目は飛ばしても大丈夫です。

POWER

MOODは270mA以上供給可能な9VDC センターマイナスの電源で動作します。

サプライにはこんなマークがあるはず:



I/O

MOODはモノラル、ステレオ、モノラルトウステレオで使えます。デフォルトの設定で、モノカステレオどちらにも自動的に対応します。

モノイン、モノアウト



TS CABLE

ステレオイン、ステレオアウト



TRS CABLE

多くのステレオデバイスは2つのモノラルジャックを備えます。その場合は以下のようなY字のデュアルTSケーブルが必要です。



モノラル入力をステレオ出力へスプリットしたいなら、MISO dipスイッチをオンにしてください。

また特別なステレオ処理を行いたい場合は、SPREAD dipスイッチ(p36)をオンにしてください。

OPTIONS

MOODにはあなたの体験をカスタマイズして微調整できるオプションがあります。全て知りたいなら、以下のページをチェックしてください。

- 隠されたオプション (p14)
- カスタマイズ (p44)
- Ramping (pg. 46)
- 外部コントロール (p48)

ややこしくてわからない? まず最初はdipスイッチは全てオフにしてスタートするのが良いでしょう。



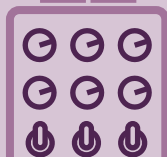
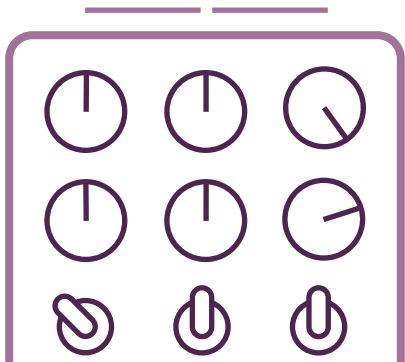
ON
OFF

OK, では始めよう。

Getting Started

MOODを使って、いくつかのシンプルな単音を質感に溢れたシンフォニーへ変換してみよう。

各チャンネルはバイパス状態からスタートします。



自分好みにいじっていくのに最適なスタートとなるデフォルト設定として、まずはこれを試してみよう。

いくつか音をプレイしてマイクローラーバーをオンに。



更に空間系チャンネルで滲ませよう。



ここからが面白くなっていくポイント。



CLOCKをさげてテクスチャを追加してみよう。



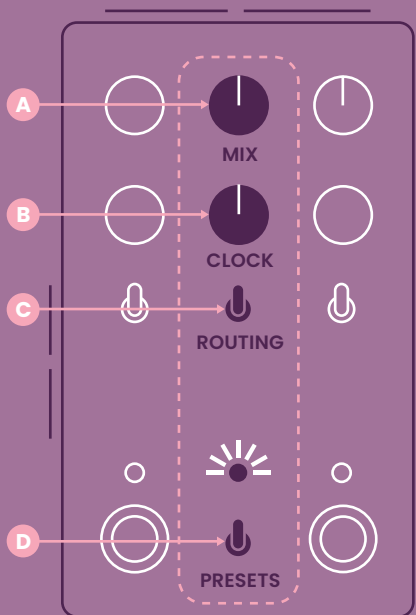
各MODIFYノブを回してみよう。



更にTIMEやLENGTHノブでも遊んでみよう。

これで **texture** は君のもの。

Shared Controls



Blend, degrade, recall.

A

MIX

入力信号とMOODのバランス（両方のチャンネルは同時に変更されず）を設定します。Ramping(p46)が有効のときこのノブは役割が変わり、rampムーブメントのスピードを設定します。

B

CLOCK

MOODのサンプルレートを設定します。マイクロルーバーの長さや解像度、空間系チャンネルのクオリティやタイムなど様々な変化をどうに発生させます。

C

ROUTING IN +IN

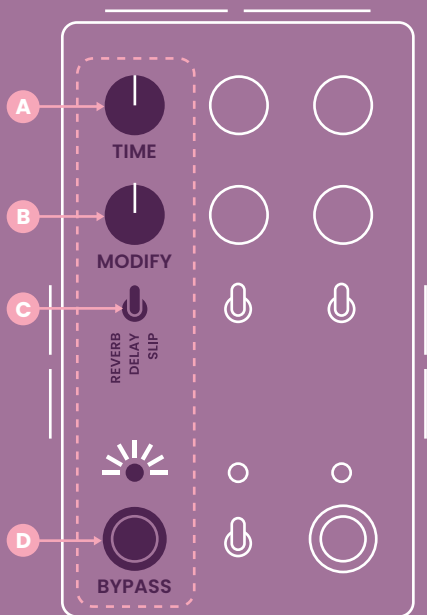
空間系チャンネルで処理される信号を選択します。両方のチャンネルがオンのときのみ有効になります。

D

PRESETS

トグルスイッチ右と左のポジションへプリセットを保存し、いつでも呼び出すことができます。中央はライブ設定で現在の設定を反映します。プリセットを保存するには、保存したい方向のフットスイッチを3秒長押しし、押しながらかもう一方のフットスイッチを更に3秒長押しします。保存に成功するとLEDが点滅します。

Wet Channel Controls



Engage, adjust, select.

A **TIME**
選択されたモードによりノブの効果は異なります。

Reverb - ディケイ / サイズ
Delay - ディレイタイム
Slip - リフレッシュレート

B **MODIFY**
選択されたモードによりノブの効果は異なります。

Reverb - 滲み
Delay - フィードバック
Slip - プレイバックスピードと方向

C **MODE**
Reverb, Delay, Slipからモードを選択します。

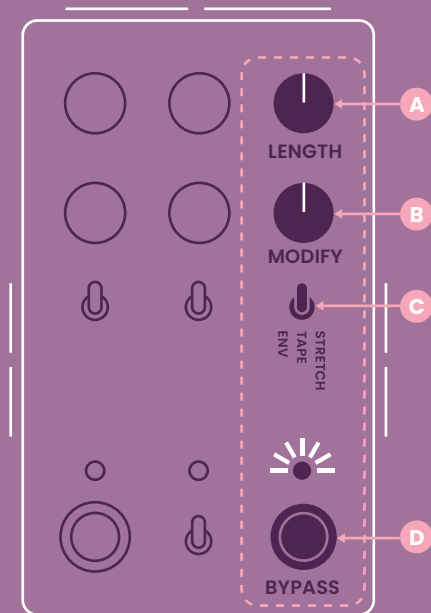
D **BYPASS**
空間系チャンネルをオンにします。

TAP
●

D **FREEZE**
現在のサウンドをフリーズし、無限にリピートします。

HOLD
●

○ Micro-Looper Channel Controls



Engage, adjust, select.

A

LENGTH

選択されたモードによりノブの効果は異なります。

Env - スライスサイズ

Tape - ループの長さ

Stretch - スライスサイズ

B

MODIFY

選択されたモードによりノブの効果は異なります。

Env - 感度

Tape - プレイバックスピードと方向

Stretch - ストレッチ量と方向

C

MODE

Env, Tape, Stretchからモードを選択します。

D

BYPASS

マイクロループの状態を、録音中と再生中で切り替えます。

○ 録音中



再生中

D

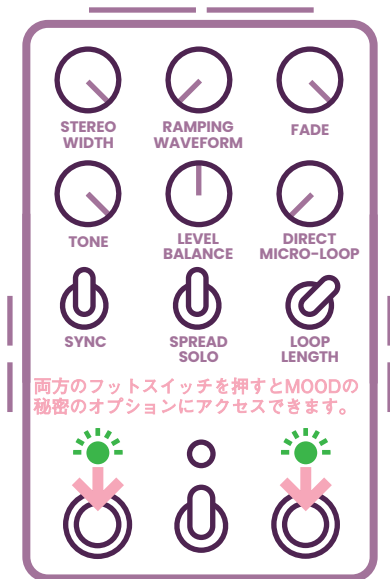
OVERDUBBING

オーバーダブを有効にし、マイクロループへ追加のオーディオを録音できます。

HOLD



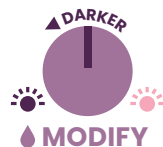
Hidden Options



(上記のセッティングは各オプションのデフォルト設定です。)



全ての秘密のオプションをデフォルト設定へ戻したい場合は、プリセットツグルを左へ倒して中央に戻す、これを3回繰り返します。LEDが点滅したら、両方のフットスイッチを押してリセットを確定します。



STONE

空間系チャンネルに適用される、シンプルなハイカットフィルター。エフェクトをメロウに響かせたり、ミックスに馴染ませたり、オリジナルMOODに近づけたりしてみよう。



STEREO WIDTH

SPREADが有効なときの空間系チャンネルのパンニングを設定します。



DIRECT MICRO-LOOP

マイクロループが空間系チャンネルへルーティングされているとき、処理されていないクリーンなマイクロループを混ぜることを可能にします。

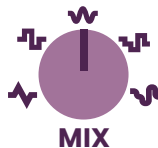


FADE

この設定を下げることでオーバーダブ中にループがフェードアウトします。ゆっくりと変化するような演出や、マイクロルーパーをディレイのように使うことも可能になります。

NO DUB dipスイッチが有効なときFADEは無効になります。

Hidden Options Continued



RAMPING WAVEFORM

Rampingムーブメント (p46) の波形を三角波、矩形波、サイン波、ランダム、スムーズランダムから選択できます。



CLOCK



MODE



ROUTING

LEVEL BALANCE

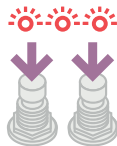
2つのチャンネルの音量バランスを設定します。

LOOP LENGTH

ループの長さを半分にカットして、オリジナルMOODと同じレスポンスにします。(実際のループの長さはCLOCKの設定によって変化します。p18を御覧ください。)

SPREAD SOLO

SPREAD (p36) を片方チャンネルのみ適用します。例えばマイクロループはモノラルにとどめて、ピンポンディレイのように受け渡したいときに便利です。いろんな設定で実験してみてください。



TRUE BYPASS

MOODはバッファードバイパスです。バイパスされる信号は100%アナログですが、トゥルーバイパスを好む方へ選択肢を用意しました。両方のフットスイッチを3回踏むと、3つのLED全てが赤く点滅しトゥルーバイパスへ変更されます。(常に録音されるルーバーはトゥルーバイパスを解除するまで動作しないことに気をつけてください。)



MODE

SYNC

1つのチャンネルをもう片方へシンクさせます。

スイッチ左はマイクロルーバーが空間系チャンネルにシンクします。ここではマイクロループの長さはTIMEノブで決定されます。タイミングに沿ったプレイが空間系チャンネルが取り込まれれば、ループは全てをキャプチャーします。リズムカルなアイディアを探すのに最適です。

スイッチ右は空間系チャンネルがマイクロルーバーにシンクします。TIMEノブはステップ状で変化し、マイクロループの長さにリズムカルに追従します。

Clock

CLOCKは「全て」をコントロールします。



具体的には、MOODのサンプルレートを設定します。
サンプルレートが影響するのは：

💧 **WET CHANNEL**
エフェクトのクオリティ、長さ

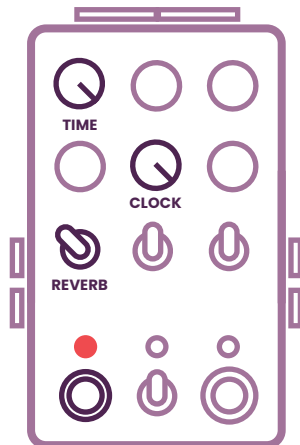
🌀 **MICRO-LOOPER CHANNEL**
ループの長さ、解像度

低い設定ではシグナルに非常にヘヴィなエイリアシング、
ダウンサンプリングが発生します。まるでコンピューター
がノイズを演奏しているような！

この変化が音楽的な、ハーモナイズされたステップで
区切られて発生するのが面白い所。例えばサンプル
レートを64kから32kへ下げると。マイクロループと
空間系チャンネルはどちらも同時にハーフスピードに
なります。

Try this:

単音をプレイして、リ
バープのディケイが
鳴っている間にCLOCK
を操作してみよう。



次に別の単音をまたプレイして、キャラクターがどれ
だけ変わったかを聴いてみよう。

CLOCKを反時計へ更に下げること、サウンドは
もっとテクスチャに近づいていきます。

CLOCKはトーン、長さ、クオリティ、全てをオールインワンで変化させます。

アンビエントでザラザラしたものをお求め？

CLOCKを下げてみよう。

よりピュアでHi-Fiなものが必要？

ガツンと上げてみよう。

エイリアシング、マイクロループの長さのセット、ディレイタイムを延ばす、など。

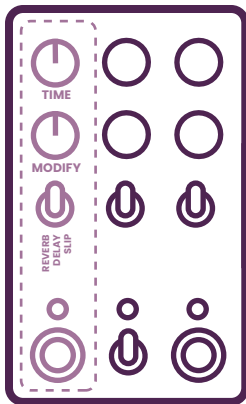
It's your partner in **MOOD.**

SMOOTH CLOCK

MKIIでは**CLOCK**ノブの変化をスムーズに出来るようになりました。SMOOTH dipスイッチをオンにすれば液体のような滑らかな変化になります。ファインチューン、少しずつの変化、不調和のハーモニーを探してみましょう。



Wet Channel



空間系チャンネルは馴染み深いエフェクトに、有意義なひねりを加えています。

このリアルタイムのエフェクトではマイクロループ、入力シグナル、またはその両方も処理できます。

bypassスイッチを長押しすることで現在のサウンドをフリーズし、無限にリピートします。サウンドは選択しているエフェクトにより異なります。

Reverb-アンビエントなパッド

Delay-ルーピングエコー

Slip-リピートするトーン

各モードには個別の挙動、更にノブの設定によってもサウンドが変わります。次のページでいくつかアイデアを紹介しましょう。

Freeze Ideas



REVERB PATTERN

REVERB TIME MODIFY

MODIFYを下げると、フリーズしたりバープはパーカッシブなパターンのように聞こえます。一度フリーズさせたらMODIFYを上げることでパターンを滲ませることができますが、元に戻すことはできないので注意してください。



DOUBLE TIME

DELAY TIME

フリーズしたディレイを二つ目のマイクロループとして使うことができます。マイクロループを録音し、ディレイに何音か演奏した後にフリーズさせてみましょう。異なるディレイの長さやシンク(p17)も実験してみてください。



SLIP SOLO

SLIP TIME

Slipモードはフリーズさせるとグリッチイなシンセのようなサウンドに変貌。MODIFYノブを操作して奇妙なメロディやアーケードゲームのような効果音を作ってみよう。

Reverb Mode



マルチタップ・アンビエンス。

MOODのリバーブは密度のあるエコーの破片が滲んだり融解したりして美しい霧のようなトーンを形成します。クリーンなクラスターエコー。飽和した残響。そして2つの中間のあらゆるトーンもすべて貴方のものです。

- **TIME**
ディケイとサイズを同時に設定します。ノブを動かすことでワイルドなモジュレーションも得られます。
- **MODIFY**
滲み具合を制御します。最小ではマルチタップディレイ、最大ではリバーブ。その間の様々なサウンドも探究してみてください。

BETWEEN STATES



BOUNCE, MODIFY



MODIFY

Ramping(p49)またはEXPペダルを使って、MODIFYノブを動かしてみよう。マルチタップとリバーブをワープし続けるユニークなサウンドに。



Delay Mode



クリーンなルーピングディレイ。

MOODの最もシンプルなモードですが、予期せぬ隠れたアビリティも持っています。2つのチャンネルでサウンドを行ったり来たりさせるのがカギです。

- **TIME**
ディレイタイムをセットします。現在のエコーにピッチベンドを与えず、クリーンにタイムが変化していきます。
- **MODIFY**
フィードバック量をセットします。最大ではルーパーのようにサウンドがどんどん重なっていきます。発振はしません。

LOOP TRICKS - フィードバックを最大にするとDelayをルーパーのように使えます。いくつかトリックをご紹介します。

SELF-STRETCH - オーディオがリピートされたら、TIMEノブをゆっくりと時計回りに回してみよう。ストレッチエフェクトがループへ録音されるのがわかるはず。

MICRO-LOOP TRANSFER - マイクロループをWetチャンネルへルーティングしたら、Feedbackを最大にしてコピーを作ってみよう。ルーティングをINにすれば2つのループが個別に存在するようになり、冒険の始まりです。

Slip Mode

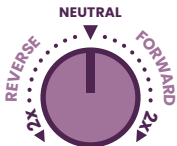


オートサンプラー。

Slipはすこし変わり者。貴方の入力を常にサンプリングし、選択したスピードと方向で出力します。気まぐれなハーモニーやピッチシフトに。

- **TIME**
サンプリングサイズを設定。低い設定ではより瞬間的な効果となりピッチシフターのように動作。高くすると貴方の後ろからついてくる、ハーモナイズしたフレーズに。

- **MODIFY**
プレイバック速度と方向を設定。ノブのレンジは半音ずつ変化します。

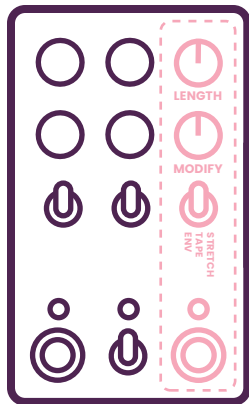


LOOPER REMIXER

Slipモードはパフォーマンス中にマイクロループを楽しく制御するのにピッタリです。MODIFYノブをグリグリ動かして、Slip効果をマイクロループへパンチンしてみよう。虹のようなステップ上のグリッチネスや、クロマチックなキー変化を織り込むことが可能です。



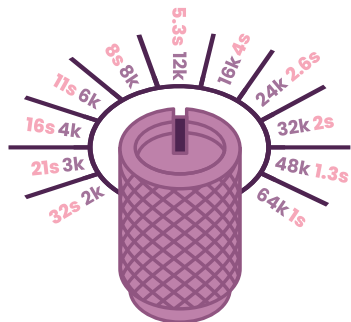
Micro-Looper Channel



MOODのルーパーは、一般的なものとは少し異なります。常に録音が行われているので、「釣り」のように音を釣り上げる感覚です。

バイパス時は常に録音が行われているので、オンにした瞬間の音は聴いてのお楽しみ。ループの長さセットも普通とは異なり、CLOCKノブの位置によって決定されます。

内訳はこんな感じ。



始めるには、まずいくつかの音をプレイしてマイクロルーパーをオンにしてみよう。もっとも最近プレイされたものが出力されて、ループされます。サウンドを弄ってみたり、オーバーダブしてみよう。

マイクロルーパーには停止コマンドは無く、実際にオフにはできないということに注意してください。

LEDは3つの状態を示します。

● 録音中 ● 再生中 ● オーバーダブ

レコーディング中は現在の設定されるループの長さが一周したところで、LEDが点滅します。

Wetチャンネルがオンの場合はマイクロルーパーは録音状態となり、Wetチャンネルの効果がマイクロルーパーへ録音されます。

TRAIL CATCHER - マイクロループからリバーブヘルテイングして、ルーパーのオンとオフを切り替えてみよう。残響のトレイルが断片的にループへサンプリングされます！

FREE PLAY - MOOD mkIIではマイクロループを再生中にルーピングモードを切り替えても、ループは消去されず保持されます。

Overdubbing

ループを一度キャプチャーしたら、その上に新しいサウンドを重ねていくことができます。

フットスイッチを長押しすると、オーバーダブが始まります。

ここで念頭に置くべき事柄をいくつか話しましょう。

WET OVERDUBS

オーバーダブ中にWetチャンネルのエフェクトが聴こえていても、それはマイクロループには録音されません。とってもラウドで恐怖のフィードバックループを作ってしまうからです。貴方のクリーンな入力シグナルのみオーバーダブされます。

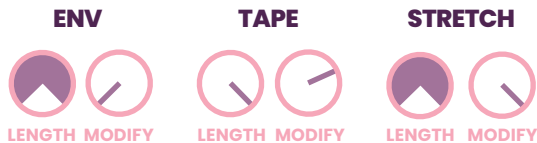


マイクロルーパーがバイパスされ録音状態(p41)にあるときは、Wetチャンネルのエフェクトが録音されます。

MISPLACED OVERDUBS

マイクロルーパーの各モードは、短縮、ストレッチ、遅延、割り込みなど異なる挙動でループのプレイバックへ干渉します。これらのエフェクトがオーバーダブ中に発生した場合、録音されたオーディオは貴方の想定とは異なる場所に配置されてしまうでしょう。

マイクロルーパーはそれ単体でワイルドかつ奇妙なサウンドとなっているので、実際にはこれはあまり問題にならないはず。いくつか音を投げ入れてなにが起こるのが見守ってみましょう。ですがより伝統的で予想のつくオーバーダブを行いたい場合は、以下の設定が役立ちます。



USE THE CLOCK! - CLOCKノブは上記のルールには当てはまりません。オーバーダブ中にCLOCKノブを自由に動かしても、貴方のノートはプレイした瞬間の状態が維持されます。異なるスピードでプレイしてハーモニーを構築してみましょう。

REPLACE

マイクロルーパーチャンネルのバイパス状態をうまく使えば、リプレイス機能のように使うこともできます。チャンネルがバイパスになると現在のループが消えていき現在のオーディオ入力を上書きしていきます。現在のループへいくらかスペースを作って、新しいいたずらやおふざけを追加してみましょう。

○ Env Mode



オーディオで制御するルーパー。

Envモードは貴方のプレイングで現在のループへ干渉し、スタッターやフリーズトーンを混ぜます。ループを破片へ切り刻み、入力へサウンドを検知した瞬間にスライスをリピート。入力が無くなるまでリピートは続きます。

- **LENGTH**
スライスの長さを設定します。低い設定ではより細かい破片へズームし、高くすると短いフレーズをリピートします。
- **MODIFY**
オーディオ検知の感度を設定します。ノブを下げると感度も下がります。

MANUAL STRETCHING

- **LENGTH**
- **MODIFY**

オーディオ検知の感度を回し切ると、ほぼ聴こえないレベルのノイズでもループへ干渉することが可能になります。ギター弦を優しくタップしたり、とても静かなシグナルでもループの遅延をトリガーできます。貴方のタッチでタイムストレッチを起こすかのように。

○ Tape Mode



テープスタイルルーパー。

Tapeモードはループをキャプチャーするのにより馴染み深い方法です。ループの速度と再生方向をハーモナイズしたステップ（オクターブ）で変更したり、ループを短くしたりできます。

- **LENGTH**
録音したマイクロループを更に短くシュリンクしてみよう。ノブを反時計に回すほどループはどんどん短くなります。
- **MODIFY**
プレイバックのスピード/方向を設定します。0.5倍速から4倍まで変更可能、順再生と逆再生も切り替えられます。



BALANCE BEAM - CLOCKスピードの調整と**MODIFY**ノブを組み合わせると、興味深いテクニックを実現できます。**CLOCK**ノブを下げてザラつきや劣化を生み出したあと、**MODIFY**でループを加速させることができます。録音したときと同じスピードで、雰囲気をもっとプラス。

○ Stretch Mode



タイムストレッチルーパー。

Stretchモードは貴方のループヘズームインして、より深みを冒険できます。拡散する短いフレーズを広大な風景へ変貌させましょう。ループをスライスして自由なスピードで動かすことで実現しています。

● LENGTH

スライスのサイズを設定します。高い設定では明瞭かつ繰り返されるフレーズが強調され、低くするとぼやけた粒子のようなサウンドとなります。反時計回りに回していくと、12時辺りで馴染み深いタイムストレッチ効果が得られます。

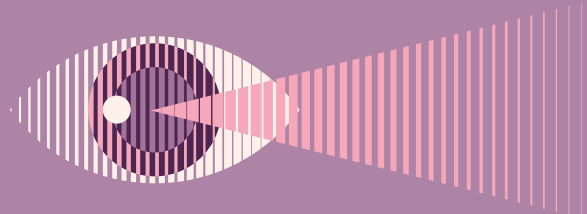
● MODIFY

プレイバックの方向と同時にストレッチ量も設定します。12時に近づくほど動きは遅くなります。MODIFYノブが最大のときはLENGTHの設定に関わらず効果は聴こえません。



STRETCHING 101

Stretchモードへ慣れるには、次の設定を試してみましょう。まずMODIFYとLENGTHを最大にして、MODIFYを少しずつ12時方向へ回していきます。物事がいい感じにスローになったら、少しずつLENGTHノブを最小へ動かしていきます。これこそ、古き良きストレッチング。



FROZEN

MODIFYを12時にするとループは処理が止まり、現在のスライスを無限にリピートします。LENGTHをここで調整すれば、繰り返される瞬間を更に短くしたり拡大したりもできます。

Spread

SPREAD dipスイッチはMOODの各モードをステレオエフェクトへ変貌させます。

隠されたオプション (p16) を使えばSPREADを片方のチャンネルのみに適用することも可能です。

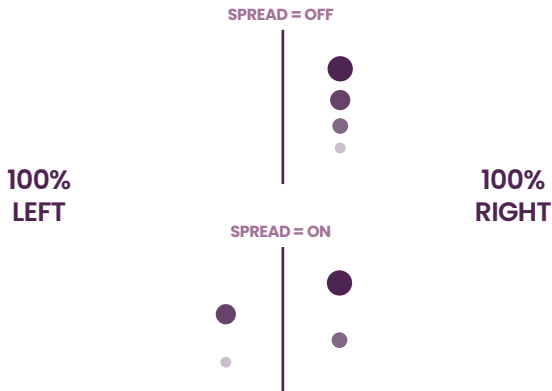
SPREADは厳密にはステレオ機能を有効にするというものではなく、MOODは常にステレオです。SPREADはMOODの複数のモードにおいて、異なるステレオイメージを形成または変化させる機能です。

DELAYモードでの変化を例に話しましょう。

SPREADがオフだと、ペダルに入力されるステレオイメージがそのまま維持されます。例えばサウンドを30%ライトヘバンした場合、エコーもそこで聴こえます。これは追加のステレオのムーブメントを必要とせず、単純にステレオの楽器をループさせたい場合に便利です。



SPREADをオンにすると入力されるステレオイメージが変化し、より強調されます。ここで30%右ヘバンした音は繰り返される度に30%右と30%左を行き来します。30%の深さを反映したピンポンディレイとなるのです。モノラル信号をステレオ信号として出力したい場合 (p44) や、入力とは異なるドラマチックなステレオ効果を生み出したいなら、迷わずSPREADをオンにしましょう。



各モードで異なる、個別のユニークな方法でステレオイメージを形成します。

Spread (by Mode)

WET CHANNEL

REVERB - リバーブタップのパンがそれぞれ異なる場所で発生。ステレオフィールド上で拡散するように反射するユニークな残響。

DELAY - エコーが右/左チャンネルを行ったり来たりするピンポンエフェクト。

SLIP - スムースなパンニングエフェクト。動きの速度はTIME（とCLOCK）設定により決定されます。

The Hidden Options can adjust the width of the SPREAD effect on the Wet Channel (see pg. 16).

MICRO-LOOP CHANNEL

ENV - スレッシュホールドを超える入力があるまでは入力そのままのステレオイメージを維持します。検知されるとシグナルがスレッシュホールドを下回るまで、右/左をパンします。動きの速度はTIME（とCLOCK）設定により決定されます。

TAPE - 右チャンネルはループのコピーを順再生、左チャンネルはループのコピーを逆再生します。

STRETCH - ゆっくりでなめらかなパンニングエフェクトを生成。動きの速度はTIME（とCLOCK）設定により決定されます。

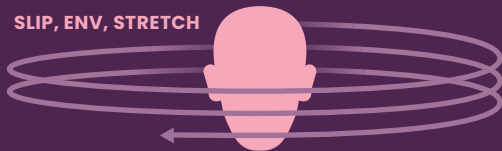
REVERB



DELAY



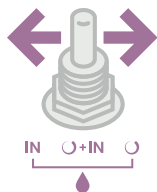
SLIP, ENV, STRETCH



TAPE



Routing



中央のトグルは、MOODのルーティングを変更します。

実際にはWetチャンネルで処理されるものを決定します。これは両方のチャンネルがオンの際のみ有効です。



入力のみ

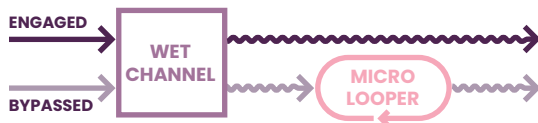


入力+マイクロルーバーチャンネル



マイクロルーバーチャンネルのみ

ルーティング制御により、例えばマイクロループのみをリバーブに送り、新しい楽器の入力には適用せずクリーンに重ねるようなプレイが可能になります。



MOODのルーティングにおいて、知っておくべきルールが一つ。

マイクロルーバーチャンネルが常に録されている状態（バイパスされている状態）のとき、ルーティングの設定に限らずルーバーはWetチャンネルからのサウンドを録音します。例えばReverbモードを有効にしながらマイクロルーバーをオンにすると、その残響アンビエンスが適用されたループが出来上がります。

WET LOOPS

デフォルトではWetチャンネルへルーティングされたマイクロループはすべて100%ウェットとなります。言い換えると、「ドライ」なマイクロループはウェットなループへ置き換えられるのです。ですが秘密のオプション（p15）を使うと、クリーンなマイクロループをブレンドすることもできます。

Classic Mode

オリジナルのMOODにあった様々な欠点や「クセ」は、MKIIではクリーンアップされています。ですがそれらの「クセ」こそが必要なこともあるでしょう。

CLASSICモードは新しい機能へのアクセスを提供しつつ、「クセ」をすべて戻します。

CLASSIC dipスイッチをオンにして楽しんでください。



コントロールは共通ですが、サウンドや実際の反応はMKIIと異なります。

CLASSICモードのユニークな側面を紹介しましょう。NO DUBスイッチがオンのときは、オーバーダブ中はループの出力がミュートされます。これにより、「フットスイッチを押しながら録音し、準備ができたらスイッチを離してプレイバックする」という、オリジナルMOODと同じ動作を実現できます。(LATCHはオフにしてください)

CLOCK

MKII - ノイズフリー

Classic - ノイズフル

CLOCKを下げるとだんだんとノイズが生成されます。

MICRO-LOOPS

MKII - 安定、無限

Classic - 段階的な劣化

ループは段々と劣化し、時間と共に歪んでいきます

REVERB MODE

MKII - ピュア、モジュレーション

Classic - レゾナンス、金属的

トレイルにマイルドなフィードバックのような金属感があります。

SLIP MODE

MKII - クリーンで一貫している Classic
- ギザギザでムラあり

設定によってはクリスピーなデジタル要素が生成されます

DELAY MODE (TIME KNOB)

MKII - 歯切れよくコントロール

Classic - グニャグニャでぐちゃぐちゃ

TIMEノブは流体のようなピッチベンドを生みます

TAPE MODE (LENGTH KNOB)

MKII - ループの長さをコントロール

Classic - ループのスライスをコントロール

LENGTHノブはループを短くする代わりにチョップします

Customize

MOODの上面、紫で印字されたdipスイッチで、MOODの機能や設定を貴方のセットアップに合わせてファインチューンできます。

dipスイッチの設定はプリセットに保存されます。



MISO

モノイン、ステレオアウト。MOODを使ってモノラル信号をステレオ信号へ分割できます。

SPREAD

ステレオ処理を有効にします。各モードは異なる方法とアプローチでステレオイメージを生成します (38ページ)

DRY KILL

ペダルの出力からクリーン信号を取り除きます (バイパス時も含まれます)。

TRAILS

ペダルがバイパスされたとき、Wetチャンネルのエフェクトがスムーズにフェードアウトします。

LATCH

各フットスイッチのホールド機能をラッチでのトリガーへ変更します。機能は再びホールドされるまでオンになります。

NO DUB (REFRESH MODE)

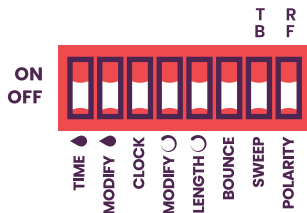
マイクロルーバーのフィードバックを0にし、マイクロルーバーチャンネルを擬似的なライブエフェクトとして使用できるようにします。これにはオーバーダブを有効にし続ける必要があります。CLOCKが高い位置にあればあるほど、プレイへの追従が速くなります。

NO DUB機能はCLASSICモードでは異なる働きとなります。この場合オリジナルMOODの挙動となるため、オーバーダブ中はループの出力がミュートされます。

SMOOTH CLOCK

CLOCKノブからハーモナイズしたステップの区切りを取り除き、流体のように変化させます。

Ramping



RampingはMOODのノブをオートメーションさせる機能です。1回だけの動き(ramp)または連続の動き(bounce)から選択できます。

まずはbounceから始めるほうがわかりやすいでしょう。ノブ自身を自動的にモジュレーションさせるイメージです。



1. BOUNCEを有効にする。
2. 制御したいノブを選択(複数可)。



3. スweep方向を設定。
4. スピードを設定。



ざっとこんな感じです。この設定ではCLOCKが設定したスピードで上下をを繰り返します。ノブ自身が自動的に決められた範囲を動くイメージです。ノブの位置はムーブメントの最大または最小位置(SWEEPの設定により異なります)となるため、重要なセッティングです。

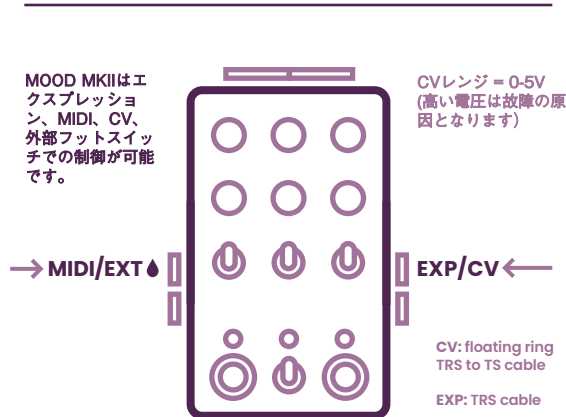
デフォルトではbounceは三角波ですが、秘密のオプション(p16)を使ってシェイピングを変更できます。

Rampは同じようなコンセプトですが、ペダルをオンにしたとき1度だけムーブメントが起きます。ノブでriseまたはfallポジションを決め、パラメータはその位置を維持します。MOODをオンにするときに、波のような動きをサウンドへ付加できます。

dipスイッチの入門編マニュアルではより詳しく解説しています。

Rampingは対応するノブのdipスイッチがONになると同時に有効になります。このときMIXノブはRampスピードを変更するノブへ自動的に切り替わります。左フットスイッチを押しながらノブを回すと、Rampが有効のときでもMIXを調整できます。

External Control

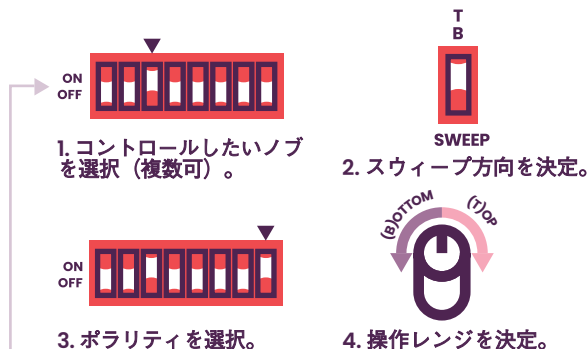


Habitのノブはエクスプレッション、またはCVで制御することができます。

MIDIを使えば、クロックシンク、隠されたオプション、dipスイッチを含むあらゆる要素をコントロールできるようになります。

エクスプレッションまたはCVへパラメーター制御を割り当てるには、rampingと同様にペダル上部のdipスイッチで設定します。制御したいパラメーターを有効にしたら、ペダルはエクスプレッション信号かCVを自動的に検知し、コントロールが割り当てられます。

*何も接続がない場合はrampingへ割り当てられます。



エクスプレッションまたはCVを接続しdipスイッチで何も割当がない場合は、MIXノブを制御します。

MIDI接続にはMIDI信号を1/4インチTRSジャックへ変換するChase Bliss MIDIBOXなどの機器が必要です。MIDIについての詳しい情報はMIDIマニュアルを参照ください。

MIDIジャックはMOODのWetチャンネルをオンオフする外部フットスイッチを接続できます。デスクトップでの使用時は便利です。スタンダードなノーマリーオープンモーメンタリースイッチを接続するだけで、自動的にコントロールが割り当てられます。



MOOD MKII

BYE

これでMOODのマニュアルはおしまいです。
楽しんで理解して使ってもらえたら嬉しいです。

もっと知りたい場合は help@chasebliss.com
または国内代理店まで。

いつでもお助けします。

Enjoy!